

心 理 学 科 彙 報

2016年度心理学科の動向

心理学部心理学科は2016年度で11年目を迎え、大学院心理学研究科心理学専攻も開設9年目となった。また、来年度の2017年度からは、大学院心理学研究科に博士後期課程が開設されることが決定しており、2016年9月30日に大学院心理学研究科博士後期課程開設記念シンポジウム「心理学の未来を拓く」を日本認知心理学会会長、箱田裕司先生、日本心理学会会長、長谷川寿一先生、元日本グループ・ダイナミックス学会会長、唐沢かおり先生をお迎えして開催した。

本年度、2016年はカリキュラム改変の初年度となっており、今年から心理学部は、4つの専門コース（臨床心理学コース、発達・教育心理学コース、認知・脳神経科学コース、社会・犯罪心理学コース）ならびに3つの実践プログラム（ビジネスリサーチプログラム、メンタルケアプログラム、チャイルドサポートプログラム）をベースとして運営していくこととなった。今後は、2017年度からの施行が予想される公認心理師へのカリキュラム対応を早急に進めていくとともに、「使える心理学」という目標の下、実践のかつ社会においても活用できる心理学的知識や技能を学生に提供することのできる科目等の充実を図っていく必要がある。

2016年度から、学生の心理学に関する基礎的知識やその方法論について初年次から綿密な教育を行うことを目的として、「心理学概論1」、「心理学概論2」、「心理学実験実習」等を新規開講した。2017年度は、2016年度入学生が2年生になることから、「心理面接実習」、「心理検査実習」、「心理調査法実習」ならびに「ライフスタイル演習」等が新規開講されることとなる。また、本年度からのカリキュラム改変に伴い、1年次の日本語の講読系科目ならびに2、3年次の演習、特論系の科目の一部、また、「レポート・論文の書き方」、「心理学体系論」等の科目は逐次開講することになるが、経過年度については、それらの科目の一部は、随時開講を行うこととなっている。

2016年度からは、新たに社会心理学がご専門の増井啓太先生をお迎えすることになった。追手門学

院大学心理学科のさらなる教育の充実にご尽力いただけることと思う。2016年度には、大神田麻子先生ならびに河崎美保先生が准教授に昇任された。また、2015年度をもって埴田健司先生が、2016年度の春学期をもって河崎美保先生が他の大学に異動されることになった。お二人の先生方の今後の益々のご活躍をお祈りしたい。

地域支援心理研究センターでは、2016年3月2日に地域支援心理研究センター分室附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」を、また、2016年11月19日には2016年度講演会（第12回）「うつ病の理解と援助のための心理学—認知行動療法の考え方と方法のエッセンスから—」（講師：吉村晋平先生）を開催した。

なお、心理学部長は浦光博教授、副学部長は中鹿彰教授ならびに金政祐司、心理学研究科長は乾敏郎教授、心理学専攻主任は馬場天信准教授、また、学科長は金政祐司がその任に当たっている。

2016年度心理学科専任教員

教 授	石王 敦子（認知心理学）
教 授	乾 敏郎（認知神経科学）
教 授	浦 光博（社会心理学）
教 授	金政 祐司（社会心理学）
教 授	中鹿 彰（臨床心理学）
教 授	中村このゆ（臨床心理学）
教 授	東 正訓（社会心理学）
教 授	三川 俊樹（カウンセリング心理学）
教 授	溝部 宏二（臨床心理学）
准教授	大神田麻子（発達心理学）
准教授	河崎 美保（教育心理学）
	（2016年度春学期をもってご退職）
准教授	駿地真由美（臨床心理学）
准教授	田中 秀明（認知神経心理学）
准教授	辻 潔（臨床心理学）
准教授	永野 浩二（臨床心理学）
准教授	馬場 天信（臨床心理学）
講 師	荒井 崇史（犯罪心理学）
講 師	荒木 浩子（臨床心理学）
講 師	倉西 宏（臨床心理学）

講 師 吉村 晋平 (臨床心理学)
 特任助教 田邊 亜澄 (認知心理学)
 特任助教 増井 啓太 (社会心理学)

和田 竜太 講師 京都大学学生総合支援センター
 講師

心理学実験準備室

定時職員 蒲田 梨恵

2016年度非常勤講師

天野 祥吾 講師 大阪府立大学
 池田 彩夏 講師 京都大学
 大場 孝弘 講師
 梶 哲教 講師 大阪学院大学 准教授
 鹿子木康弘 講師 NTTコミュニケーション科学基礎研究所
 川畑 直人 講師 京都文教大学 教授
 木原香代子 講師 立命館大学
 藏口 佳奈 講師 京都大学
 小林 昌幸 講師
 清水 寛之 講師 神戸学院大学
 鈴木三千代 講師
 高瀬 由嗣 講師 明治大学 准教授
 高橋 平明 講師 財団法人元興寺文化財研究所
 高橋 登 講師 大阪教育大学
 竹中 菜苗 講師 大阪大学
 田爪 宏二 講師 京都教育大学
 谷口 康祐 講師 同志社大学
 谷田 勇樹 講師 大阪大学
 中井由佳子 講師
 中田 行重 講師 関西大学 教授
 永原 直子 講師 大阪健康福祉短期大学 准教授
 能登原祥之 講師 同志社大学 准教授
 畑中 千紘 講師 京都大学心の未来研究センター
 藤井 達史 講師 大阪大学大学院
 藤井 佳子 講師
 松村 京子 講師 兵庫教育大学
 宮本 郷子 講師
 森田 喜治 講師 龍谷大学 教授
 森脇 一郎 講師 神戸市立摩耶兵庫高等学校
 八木 隆明 講師
 柳澤 邦昭 講師 京都大学心の未来研究センター
 芳田 茂樹 講師 大手前大学 教授
 吉田 千里 講師 京都大学 (大学院教育学研究科 研究員)
 我妻 秀範 講師 京都府立綾部高等学校

2016年度心理学科講演会

・2015年度心理学科講演会

2016年12月7日(水) II時限 (11:10~12:40)

2402教室

演題:モノの死を悼む心—アニミズム的思考と多様化するモノ供養—

講師:関西大学教授 池内裕美先生

最初に、池内先生の研究テーマである対物関係の心理についての説明がなされた。人はなぜモノを所有したがるのか、その源泉について説明を加えるための諸理論・諸説について触れた後、モノの所有を放棄する機会とその理由について、あるいは、その所有を放棄できないモノ(捨てられないモノ)の例とその理由についての説明がなされた。捨てられないモノの例としては、故人を偲ぶ「形見」やいつも自分が好んで使っていた愛用品などがあり、それらは亡き人あるいは自分の「拡張自己」、すなわち、亡き人や自身の一部として捉えられるものであるがゆえに、それらはなかなか捨てることができないモノとなり得るとのことであった。このなかなかモノを捨てることができないということには元来日本人がモノを大切に扱う民族であったことも寄与しており、このような愛着のあるモノを処分しなければならなくなったときに、モノ供養、すなわち、所定の役目を終えたモノを、感謝の意を持って扱う儀式なるものが一つの有効な手段になるというのである。

次に、モノ供養に関して、メガネ供養や刃物供養といった事例を紹介されると共に、モノ供養の歴史的背景についての説明がなされた。日本は古来よりモノを大切に扱う民族であったがゆえ、モノに魂が宿るといった観念を有しており、それゆえ、多くの書物に器物や自然物の精霊が物語化されていたり、また、道具が化けるという思想が絵巻物として表現されていたりする。そのため、モノを粗末に扱うと妖怪(付喪神)となって人間に禍をもたらすと考えられるようになり、そうしたモノの付喪神化を阻止するために、モノを祀るという行為、すなわち、モノ供養の必然性が生まれたとされる。

モノ供養の代表的な例としては人形供養が挙げられる。池内先生の研究によると、人形供養をした理由としては、「ゴミとして捨てるのは可愛そうだから」、「長い年月をともに過ごしてきたから」、「魂、

命が宿っていると思うから」といった回答が数多く挙げられていた。また、ぬいぐるみの供養は、「大切にしていたから」といった理由と関連性が高いが、日本人形や西欧人形の供養については、「魂、命が宿っていると思うから」や「罰が当たりそう」といった理由との関連性が深く、対象がヒトガタに近くなるほど畏怖の念を強く感じる可能性が示唆されている。このようにモノ供養の背景には様々な心理が潜んでいるが、供養の目的に関しても、モノへの感謝や弔いの気持ちといった「モノ自体のために行うパターン」、悲嘆や罪悪感を軽減するといった「自分自身のために行うパターン」、所有者への感謝や弔いといった「第三者（本来の所有者）のために行うパターン」の3つが考えられる。

上記のように、モノを大切に扱い、また、モノに魂が宿るといった世界観を有する日本人にとっては、アニミズムは親和性が高い。このようなアニミズムと日本人のモノ観に関して、続いて説明がなされた。モノ供養は日本特有の行為であり、それは日本人がモノを人格化、神格化するためであると考えられ、そこにはアニミズム的思想が関与している蓋然性は高いと言える。

アニミズムの起源と定義に関しては、宗教学・文化人類学的アニミズムと心理学・哲学的アニミズムに分類することが可能であり、宗教学・文化人類学的アニミズムは、神道イデオロギカルな「自然の万物に靈魂の存在を認める宗教観」として、心理学・哲学的アニミズムは、「幼児期において無生物を生物と見なす、認知的錯誤と呼べる現象（ただし、これは成人においても生じ得る）」として捉えることができる。これらを踏まえて、池内先生は包括的にアニミズムを捉え、アニミズムを「実際に生を認めているわけではないが、無生物に対して神性や生命の存在を感じる現象、あるいは思考形態」と定義し、成人用アニミズム尺度の作成を行っている。成人用アニミズム尺度は、自然物の神格化、所有者の分身化、所有者の擬人化の3つの下位尺度からなるものであり、自然物の神格化は、上記の宗教学・文化人類学的アニミズムと、所有者の分身化ならびに所有者の擬人化は、先の心理学・哲学的アニミズムと対応するものであるとされる。

この成人用アニミズム尺度を用いた研究結果からは、男性よりも女性の方がアニミズム的思考が強いこと、宗教的な現象への認識が高い人ほどアニミズム的思考をしやすいこと、加えて、アニミズム的思考が強い人ほどモノ（人形）の処分に対して消極的

なことが示されている。さらに、アニミズム傾向の文化差についての研究も池内先生は行っており、日本とアメリカとを比較すると、3つの下位尺度すべてにおいて日本人の方が高い得点を示すとのことであった。

先述のモノ供養とアニミズム的思考との関連についての検討も行われており、モノ供養経験者は、その経験がない者に比べてアニミズム的思考が強いという結果が得られ、モノに対する態度や行動にはアニミズム的思考が少なからず関係していることが示唆されるものであった。さらには、アニミズム的思考は、パレイドリア錯覚（何らかの視覚的刺激が人の顔に見えてしまう現象）とも関連しており、アニミズム的思考とモノのとらえ方との関連性の堅固さを示す研究結果も得られている。

最後に、近年ではお寺の存続のために、こうした日本人のアニミズム的思考の強さに乗じた様々なモノ供養ビジネスが興隆しつつある現状について話をされた後、学科講演会を終えられた。

（報告者 金政祐司）

・平成27年度心理学研究科講演会

2016年1月15日（金）5限に、6号館6101教室にて心理学研究科の講演会をおこなった。今回はカルト、特殊詐欺の社会心理学的研究のトップランナーである西田公昭先生（立正大学心理学部教授）をお迎えして、「信じる心と疑う心 人は何故だまされるか？」という演題で講演していただいた。

講演のはじめに、西田先生は、「信」じるという漢字の由来は、「人」の「言」うことを信じるということであり、そして信じることは美德であり、支援や愛につながるというのが、世間の常識になっていると述べられた。つまり、信じる心は人間の本性の一つであり、正しい心の機能である。しかし、その機能を悪用して、とんでもない人やモノを信じこまされると大変なことになってしまう。つまり、「信じる心」＝「だまされる」になってしまうと前置きして本題に入られた。

最初に、カルトや特殊詐欺、悪徳商法の被害の恐ろしくも生々しい現実が種々紹介された。芸能人の例もあり、興味がそられる話であった。しかし、この詐欺の危険性は、遠い世界の話ではなく、私たちの日常に入り込んでいることを強調された。

次に詐欺行為を行う人のいうことを私たちが信じてしまうメカニズムが紹介された。一般の人々は、詐欺行為についてさほど「知識」を持たず、時間な

どのコストをかけて考えないのが普通である。省エネ思考をしがちであり、まさに認知の儉約家である。ところが、だます方は、十分な資源を投じて全力でだましにかかってくる。これに対抗するには、こちらも知力や社会的関係資源を動員しなければならないが、通常、そこまでできないのが現実であり、結果、多くの被害者を生み出してしまふ。

人が怪しくても信じる条件として、ユーティリティ（価値感：本当だったら都合がよい）、リアリティ（現実感：確かに経験したし、他の人も認めている）があり、この2条件が巧みに詐欺の設定に組み入れられていることが説明された。巧妙なだましのテクニックが用いられているために、しっかりした人、社会的経験がある熟年の人が一番犠牲になっている。自分はしっかりしているから大丈夫だと思ってもだまされてしまう可能性が高いことをまず知ることが大事である。

講演の後半部では、被害に遭わないための5つの心得が紹介された。第1ポイントは「自分はだまされないと過信しないこと」である。ほとんどの人の個人情報に漏洩しており、簡単に手に入れることができる。ターゲットとされると巧みに個人情報を利用して加害者は仕掛けてくる。第2は、「売り口上の怪しさに気づく訓練をしておくこと」である。詐欺の特徴として、人に相談させず急いで決めさせようとする所がある（何時何時までに振り込まないと息子さんは逮捕されるとか）。この怪しいサインに気づくことである。第3は、『ストレスやプレッシャー、感情のゆさぶりには負けない訓練をしておくこと』である。オレオレ詐欺はリアルな状況を作り出し、不安、恐怖、パニック寸前に追いこんで、「お金で解決するしかない」と被害者に思い込ませる。これはだましの定型であり、苦悩している自分に気付いたら、振り込みをして楽になろうと衝動的に動かずに、早く人に相談すべきである。第4は、「すぐに、はっきりと断る訓練をしておくこと」である。被害者が自分をよく見せようとしてお人よしになってしまうことや、だんだんお金を出し続ける総額が増えるほど負担感もさほど上がらなくなる心理法則（プロスペクト理論）を詐欺師はついでくる。第5は、「すぐに味方に相談すること」である。自分だけで判断せず、怪しいと感じたら、人に相談することである。

詐欺やカルトは、用意周到に「人の信じるころ」の仕組みを悪用し、善意の人をよそおって身近な日常の中に侵入している。加害者は圧倒的に有利で、被害者は圧倒的に不利な状態に置かれている。

「さ」と警戒モードにきりかえ。「し」っかり、相手と内容をたしかめ。「ず（す）」ぱっと怪しさに気づき。「せ」いいっぱい誘惑や恐怖に耐え。「そ」く誰かに相談するという「さしすせそ」の原則を念頭に、公的な防止策を進めていかなければならない。この講演に、大学院生、学部生以外に、警察関係者、地域住民の方々のご参加をいただいたことは大変有意義なことであった。

（報告者：東 正訓）

追手門学院大学地域支援研究センター

2016年度 事務スタッフ

委託社員 中村 有里（リーダー：10/31まで 教務課へ転出）

委託社員 神崎 知子（分室：6/30まで 本室：7/1から リーダー：11/1から）

委託社員 宇井早世子（本室：6/30まで 分室：7/1から）

委託社員 西村 涼子（本室：4/1より）

委託社員 市来めぐみ（本室：11/17より）

・追手門学院大学創立50周年記念事業 地域支援心理研究センター分室・附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」

2016年3月2日(水) 午後6時より8時10分まで、茨木市立男女共生センター ローズWAM B2Fワムホールにて、追手門学院大学創立50周年記念事業の一環として、地域支援心理研究センター分室・附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」を開催いたしました。例年ですと当センターの事業としましては、秋に「地域支援心理研究センター公開シンポジウム」を開催し、冬に3回連続で「地域支援心理研究センター公開講座」を実施しているのですが、今回は地域文化創造機構の協力の下、大学創立50周年記念事業の一環として当センター分室開設記念のシンポジウムを行うこととなりました。基調講演に高名な宗教学者で、相愛大学人文学部教授の釈徹宗先生をお招きして、ディスカッションに市民代表として大阪府虐待防止アドバイザーの辻由紀子さん、心理学部から浦光博学部長、当センターから溝部宏二が参加いたしました。司会を地域文化創造機構長の河合博司教授が担当されました。平日の夕方開催にも拘らず、定員の150名は講演の1週間前には埋まってしまい、直近の参加申込者はお断りする程の盛況ぶりでした。また、4

月に釈先生がご担当されるNHKテレビ講座「100分de名著『歎異抄』」の撮影スタッフの参加もあり緊張感のあるシンポジウムとなりました。

シンポジウムの概略を記載いたします。シンポジウムは福島一政副学長のあいさつに始まり、先ず釈先生の基調講演が行われました。釈先生は、日本社会の現状が、成熟社会であるが故に、社会保障が脆弱化し都市化と地域社会の変質が生じたという考えを主題とされながら、「若者世代の苦悩」と「高齢者世代の苦悩」を具体的に検討され、それぞれから導き出した対処法を述べられました。先ず、若者世代についてですが、30歳より下の世代は自ら「さとり世代」と名乗っていて、求めているものがそれ以前の者と異なるそうです。彼らは、一生懸命働いても社会に何の役に立っているのか感じられず、生きている実感がないという辛さを抱えています。それに加えて、若年層は貧しくても自分の気持ち第一主義なのです。ところが従来の社会は成長モデルで動き、常に自己表現を要求するので、自分のイメージと他者評価がずれることで傷つき、苦しむという特性が存在していると述べられました。若年者の苦悩の克服は、ずれてしまった心と体を再び繋ぐことが肝要であるとのこと。次に高齢者世代の苦悩について、無縁というのは、仏教用語では何のゆかりもない人と助けあって暮らすことです。現代は地縁、血縁が解体されて職縁もなくなる状態になっています。その結果あちこちのコミュニティーに足を突っ込むか、さもなければ自分で縁を作っていくしかないという現状について説明されました。特に個人のつながりのコミュニティーは、近景が家族、友人、遠景がグローバルな世界や国家とすれば、中景の地域が急速に衰退していると述べられました。衰退する地域を活性化するには、文化、アート、芸能で豊かにすることが可能であるとの見解を述べられました。そして、繋がりが希薄化した現代社会では、老若男女はコネクションが無くても生きていける様に、「フェアネス」の実施と、情報をはじめとする様々な「シェア」を実行することが必要であるとまとめられました。

浦学部長は、「現代社会の孤立と孤独」と題してお話しされました。浦先生は、ご自身の調査研究を踏まえた上で、孤立していなくても孤独な若者が多いという現状について報告されました。孤独だと生きる意味を失う非常に深刻な病理性を孕んでいます。その結果、免疫力が低下しますし、心臓にも機能障害が生じなど身体化が起こります。行政の介入によ

り孤独な高齢者は意外と少ない状況なので、元気な高齢者が孤独な若者をサポートし、若者が高齢者を支えていく、互助的な社会が構築できれば素晴らしいとまとめられました。

溝部は、「アナタの知らないうら（こころ）の世界～なぜ人は『絆』を求めるのか～」と題してお話ししました。人は裏と表の二つの世界を生きています。本音と建て前、情と知、絆と自立と対比することができます。自らのうらにあるものは醜いから見にくい。その裏と表をバランス良く統合させるにはどうすればいいか概説しました。要点は、「自分には責任が無い（イノセンス）」を解体し「自分はロクデナシである」と自覚することで、良い加減に諦めることが肝要である。そうすることで、他者に期待し過ぎず、孤立感を軽減することが可能であるとまとめました。

最後に辻さんが、フリートークで会場に語り掛ける様に講演を行われました。18歳で結婚して、親から勘当と言われ渡され、夫が働かない中で一人子育てしたがうまくいかなかった体験をもとに、子育て世代は孤立しないことが大切と実感されたそうです。子育てをしていると不安なことがいっぱいあり、そのような実際の不安一つ一つに対応することに意味を見出されて、ママさんたちのネットワークを作っておられます。辻さんは悪者探しを引き起こす「児童虐待防止」の呼びかけが大嫌いだそうで、悪者探しをせずに、人と人の繋がりが社会問題を解決するとの信念をお持ちで、最後に「皆さんの優しさをどうぞ分けてください」と会場に呼びかけ大きな拍手が沸き起こりました。

その後は、釈先生を含めた4人の討論が行われました。導き出された結論は、親子などの「縦の関係」や友人などの「横の関係」は辛うじて機能しているのですが、伯父さん叔母さんなどの関係・地域社会との関係などの「斜めの関係」が希薄になっているので、そこを強化するのが急務であろうと考え、この様なシンポジウムで地道に啓蒙する意味を見出して閉会となりました。

(報告者：溝部宏二)

・2016年度追手門学院大学地域支援心理研究センター講演会（第12回）

2016年11月19日(土) 午後1時30分より午後3時00分まで、本学5号館3階5301教室において、「うつ病の理解と援助のための心理学～認知行動療法の考え方と方法のエッセンスから～」と題して地域支援心

理研究センター主催、茨木市教育委員会後援で第12回地域支援心理研究センター2016年度講演会が開催されました。例年ですと「公開シンポジウム」として、基調講演とシンポジウムを実施していましたが、参加者にアンケートを実施したところ、「時間が短く、話が深まらないままシンポジウムが終了して残念。一人の話をじっくり聞きたい。」との意見が多くみられました。スクールバス等の関係で、時間の延長がままならぬので、シンポジウム形式を一昨年度からは止め、アンケートで希望が多かった「うつ病の認知行動療法」の講演会を実施することとしました。

演者は、心理学部の吉村晋平講師にお願いいたしました。概ね、この講演会の講師は外部の方をお願いすることが多いのですが、テーマが「うつ病の認知行動療法」ですと、吉村先生のご専門でもありますし、吉村先生が立ち上げられた「うつ病のグループセミナー」の参加希望者の発掘に繋がればという思いから演者に選定させていただきました。

講演は、天使が憂鬱に沈んでいるアルプレヒト・デューラー作のメランコリアⅠのスライドから始まる、極めて格調高い出だしでした。続いて、「うつ病の基礎知識」が概説されました。うつ病は「心の風邪」?と題して解説が加えられました。自殺が10%を占め、不良な転帰が20~30%あるうつ病を「風邪」と軽く考えて良いのだろうかとの問題提起がなされました。その後は、うつ病の症状、気分障害の病型、うつ病の経過、脳機能から見たうつ病の病態モデル、ストレス反応と生物学的側面を説明されました。次に、「心理学はうつ病をどのように理解するのか」とのテーマでうつ病とは、様々な要因やプロセスならび文脈の複雑なつながりによって維持されるものである旨の確認からスタートしました。うつ病は内面の問題として捉えられがちであるが、「状況の変化」とそれに対するリアクション（反応）であるとの見方を提示されました。そして、現在および過去に発生したネガティブイベントに対する、原因探し、解決策、後悔等に焦点付けられた思考を反復すること（反芻）が問題であると、非常にクリアにうつ病の特徴をあぶり出されました。反芻してしまう理由は、反芻することが問題解決に繋がるとポジティブな信念が存在しているとうつ病における認知の在り方を示されました。続いて、その反芻する認知の在り方が、回避行動を引き起こし、回避による喜びの喪失（アンヘドニア）が生じるとの病態仮説が提示されました。「うつ病に対する認知行動療法」

は、この反芻する認知をバランス良いものへと変換することで悲観的で抑うつ思考が修正される。更に回避行動が導きだす喜びの喪失が、回避行動の修正により回復すると治療仮説を提示されました。そして、実際に認知行動療法を運用する際の技法について解説されました。まず、問題リストを作成し、認知行動療法への導入を図るのですが、よくあるパターンを整理し、パターンを変える方法を提案する際の技法が説明されました。要点は、問題解決志向で、治療を構造化する（セルフモニタリング・活動スケジュールと段階的タスクの割り当て、問題解決スキルの拡充、認知的再体制化、現実場面での練習とセルフモニタリング）ことにある様です。大変興味深かった点ですが、回避行動を中止する行動活性化を促すには、「生き甲斐」の必要性が言われ始め、今流行りの「マインドフルネス」が技法に組み込まれたことです。価値観という要因が認知行動療法に付与されたのは、機械的な印象を与える認知行動療法のパラダイムシフトであると感じました。最後に、吉村講師が運営している「うつ病のグループセミナー」のアナウンスがなされて、講演は終了いたしました。終了後は大学院生や修士生を中心に活発な討論が展開されたのですが、「うつ病のグループセミナー」に参加したいので詳細を教えて欲しいとの当事者の方からの質問もあり、盛況のうちに講演会は終了しました。

（報告者：溝部宏二）

2016年度心理学論集・特集 「職業としての心理学」題目一覧

三川 俊樹	特集：「職業としての心理学」
大畑 豊	カウンセラーとして起業家として
榎並小百合	子育て支援における臨床心理士の仕事
岡本 貴弥	対人援助職を養成するという仕事
中西 誠	非常勤職としての心理学の専門性
佐藤 仁孝	就労支援における臨床心理士
清水 碧美	教育センターの相談員として
大台 賢史	スクールソーシャルワーカーの仕事
鳥井 崇行	職業としての心理士について思うこと
岩佐 浩	産業領域における臨床心理士の仕事
黄瀬 敦美	保育園における保育士の仕事
篠倉 拓也	家庭支援センターでの心理士の仕事
森川なつ花	精神科クリニックでの心理士業務
有森 修三	刑事施設における心理職

心理学専任教員の研究活動

石王敦子教授

最近の研究課題

- ・ワーキングメモリ容量と抑制の関連について
- ・バイリンガルの言語処理について

科学研究費獲得

- ・平成28年度科学研究費助成事業（基盤研究（c））
「バイリンガルの言語獲得に関する認知発達モデルの構築」（平成28年度～平成31年度）

国内研修（2016年4月1日～2017年3月31日まで）

- ・日本大学文理学部巖島行雄教授のもとで、国内研修の機会を得た。

著書

- ・落合正行・石王敦子（2016）. 認知発達理論の変遷
矢野喜夫・岩田純一・落合正行編
『認知発達研究の理論と方法』第1章、3-22. 金子書房.

論文

- ・石王敦子・落合正行（2016）. バイリンガルの自伝的記憶2－言語発達の観点から－ 追手門学院大学心理学部紀要, 10, 1-11.

所属学会

日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本発達心理学会, 日本基礎心理学会, 日本認知心理学会

学会役員

関西心理学会委員、日本臨床発達心理士会大阪・和歌山支部副支部長、日本臨床発達心理士会資格認定委員

資格

学校心理士スーパーバイザー、臨床発達心理士スーパーバイザー

乾 敏郎教授

最近の研究課題

1. 「自己の心的状態モニタリング」および「他者の心的状態推定」の認知機能を、自他分離表象に基づいた心的状態のベイズ推定として定式化し発達モデルを構築する。本年度、発達モデル論文が *Frontiers in Psychology* に採択された。
2. 他者視点取得および視点変換の学習過程のモデル化と実験的検証（北大との共同研究）。
3. 情動的意思決定機構の関する心理実験とモデル化をおこなう。
4. 感情が生起する仕組みや感情空間及び感情語と

の関係について現状を調査し、感情の分類と内受容性信号の関係を明確化する。

5. 他者の感情を自己の感情を用いて、すなわち共感的に推定していることを実証する。
6. 1～5の問題を逆問題の解法として定式化する。
7. 自閉症の発症機序のモデル化（京大・東大との共同研究）。英語論文を完成させ、投稿中である。
8. 幼児の転導推理過程のベイズモデルを構築し、共同研究を通じて実証する。

研究助成

1) 文部科学省科学研究補助金

- ・科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）（代表）
「分離表象に基づく自己の心的状態モニタリングと他者の心的状態推定の発達モデル」
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）（分担）
「生体情報の統計科学」
- ・科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（分担）
「転導推理と擬人化の認知発達メカニズム—ベイズ推定とミラーシステムから」

2) 受託研究

- ・トヨタ自動車株式会社（代表）
「コミュニケーションロボットの人間科学的研究」
- ・株式会社コンボン研究所（代表）
「意思決定における感情機能の脳内機構のモデル化」

3) 2017年度科研費申請

- ・科学研究費補助金基盤研究（S）（分担）
「身体的表象から他者の心的状態の推論にいたる発達プロセスの解明」
- ・科学研究費補助金基盤研究（A）（分担）
「身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明」
- ・科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型）計画研究（H29～H33）
「関係性の動態に関する計算モデル」（分担）

特任教授・客員教授

- ・京都大学こころの未来研究センター特任教授
- ・広島大学大学院医歯薬保健学研究院客員教授
- ・金沢工業大学客員教授

受賞

2016年9月18日 日本認知科学会フェロー受賞
2017年1月5日 追手門学院より八東周吉賞受賞

社会活動

- ・2016年9月30日 追手門学院大学博士後期課程開設記念シンポジウム「心理学の未来を拓く」追手門学院大手前中・高等学校6Fホール 主催

著書

- ・乾 敏郎 (共著, 2016) 言語システム. (電子図書) 電子情報通信学会『知識ベース』S 3 群 1 編脳と神経モデル.
- ・乾 敏郎 (共著, 2016) 社会的認知機能を支える神経基盤とその障害. 矢野, 岩田, 落合 (編) 『認知発達研究の理論と方法-私の研究テーマとそのデザイン』2章 社会的認知機能を支える神経基盤とその障害. 金子書房, 23-39.

著書引用 (日本語教育)

- ・乾 敏郎 (1993) Q & Aでわかる脳と視覚. サイエンス社. より引用掲載『日本語中級 J 301 基礎から中級へ改訂版 (英語版)』株式会社スリーエーネットワーク, 2016.

随想

- ・乾 敏郎 (2016) 飛べない鳥の20代: I am a scientist. 学生相談室だより, 80, 1.
- ・乾 敏郎 (2016) 『心理の追手門』で新しい研究フィールドを創造するための研究科を目指す. LIBERTAS, 69, 3.

論文

- ・Asakura, N. and Inui, T. (2016) A Bayesian framework for false belief reasoning in children: a rational integration of theory-theory and simulation theory. *Frontiers in Psychology*, *in press*.
- ・石川敦雄, 西田 恵, 渡部 幹, 山川義徳, 乾敏郎, 楠見 孝 (2016) 背景にある室内空間要因が対人認知に及ぼす影響 - 初対面の人物に対する印象形成を対象として -. *環境心理学研究*, 4, 1-14.
- ・岩渕俊樹, 平井真洋, 横田英典, 櫻田 武, 渡辺英寿, 乾 敏郎 (2016) 文理解における情報統合の脳内メカニズム: 皮質脳波 (ECoG) による検討. *信学技報*, NC2015-103, 195-200.
- ・乾 敏郎 (2016) 円滑なコミュニケーションを支える3つの機構と自閉症発症機構. *LD研究*, 25, 1, 29-31.

国際学会発表

Fukui, T., and Inui, T. (2016) Crucial period of online vision for grasping control is modulated according to movement duration. The 31st International Congress of Psychology. Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, 24-29 July, 2016.

学会発表

乾 敏郎 (2017) 認知発達理論の基礎となり得る二つの理論. 日本発達心理学会第28回大会シンポジウム, 広島.

乾 敏郎 (2017) イメージ変換・心の理論の神経回路とその発達. 日本発達心理学会第28回大会シンポジウム, 広島.

朝倉暢彦, 乾 敏郎 (2016) 幼児の誤信理解のバイズモデル—理論説とシミュレーション説の統合—. 発達神経科学学会第5回大会, 東京.

講演等

- ・2016年6月26日「言語・非言語コミュニケーションの神経機構」第31回静岡県言語聴覚士会総会グランシップ会議室910 静岡
- ・2016年7月16日「視点取得と共感の神経機構」関西認知発達研究会 京都教育大学 京都
- ・2016年8月6日「共感する脳と共感しない脳」2016年度オープンキャンパス模擬授業 追手門学院大学 大阪
- ・2016年9月18日「言語・非言語コミュニケーションの基盤機構と発達原理」日本認知科学学会第33回大会フェロー講演 北海道大学
- ・2016年9月24日「自閉症の診断基準を神経機構から理解する」こころ塾2016仙台 医療および教育専門職対象 東北大学川内南キャンパス文学部第1講義室 宮城
- ・2016年10月2日「自己主体感・自己存在感・催眠の脳内機構」第32回日本催眠学会学術大会 東京大学 本郷キャンパス・医学系教育研究棟13階 セミナー室
- ・2016年10月8日「感情と身体性: 感情の役割とその神経機構」こころ塾2016 医療および教育専門職対象 京都大学稲盛財団記念館3階大会議室 京都
- ・2016年10月15日「円滑なコミュニケーションを支える神経機構」こころ塾2016 医療および教育専門職対象 京都大学稲盛財団記念館3階大会議室 京都
- ・2016年10月18日「共感能と他者理解: その機構と発達障害」応用脳科学アカデミー ワテラスコモンホール 東京
- ・2016年10月22日「言語・非言語コミュニケーションの神経機構」こころ塾2016 医療および教育専門職対象 京都大学稲盛財団記念館3階大会議室 京都
- ・2016年11月16日「順・逆変換による運動・言語・他者理解・感情の脳内機構」豊田中央研究所 愛知
- ・2016年11月27日「遺伝的要因と可塑性による社会性障害の神経機構」発達神経科学学会第5回大会シンポジウム: 「周産期からの身体感覚と社会的認

知の発達の関連性の解明に基づく障害理解」東京大学 東京

- ・2016年12月3日「コミュニケーション機能の脳内メカニズムと自閉症発症機構」第1回発達神経科学とニューロリハビリテーション研究会 畿央大学 奈良
- ・2016年12月17日「自閉症発症機序と社会性障害：遺伝と環境の相互作用」認知発達理論分科会第51回例会 CIVI研修センター新大阪東 大阪

所属学会

日本発達心理学会, 日本心理学会会員,
日本神経心理学会会員, 電子情報通信学会会員,
ヒト脳機能マッピング学会会員, 日本認知心理学会,
日本神経回路学会, 日本高次脳機能障害学会

学会役員・委員

- ・日本認知心理学会常務理事
- ・日本神経心理学会理事
- ・日本発達神経科学学会理事
- ・日本高次脳機能障害学会代議員
- ・ヒト脳機能マッピング学会運営委員
- ・日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
- ・日本認知心理学会認知心理学叢書編集委員
- ・日本発達心理学会認知発達理論分科会幹事
- ・第40回日本神経心理学会学術集会プログラム委員
- ・電子情報通信学会 ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員
- ・電子情報通信学会 ヒューマン情報処理研究専門委員会顧問

学会活動

- ・2016年6月17日 日本認知心理学会 ベーシックセミナー 広島大学 東広島キャンパス 広島大学学生会館レセプションホール 主催
- ・2016年10月1日 日本認知心理学会 公開シンポジウム～感情・感性・コミュニケーション～工学院大学A0542教室（高層棟5F）・B0563教室（中層棟5F）主催
- ・2016年12月17日 日本発達心理学会 認知発達理論分科会 第51回例会 CIVI研修センター新大阪東 主催

委員

2016年9月15日～16日 第40回日本神経心理学会学術集会（KKRホテル熊本）プログラム委員
2015年～2018年 日本認知心理学会 認知心理学叢書 編集委員
2015年12月1日～2017年11月30日 日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員

2015年4月1日～2017年 一般社団法人日本高次脳機能障害学会 代議員

2015年～2017年6月 電子情報通信学会 ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員

電子情報通信学会 ヒューマン情報処理研究専門委員会 顧問

報道記事

2016年10月14日 Bridge Vol.09「日本認知科学会フェロー受賞」

浦 光博教授

研究活動

2015年度に採択された科学研究費補助金（基盤B）「関係への所属はわれわれに何をもたらすか－他者との関係の行動科学的検討」による研究が2年目に入った（2018年度まで）。

論文

Kawamoto, T., Ura, M., & Hiraki, K. (2017). Curious people are less affected by social rejection. *Personality and Individual Differences*, 105, 264-267. [doi: 10.1016/j.paid.2016.10.006]

Masui, K., & Ura, M. (2016). Aggressive humor style and psychopathy: Moderating effects of childhood socioeconomic status. *Translational Issues in Psychological Science*, 2, 46-53.

浦 光博・山縣桜子・寺田未来 (2016). 教師への信頼感と暗黙の知能観が自律的な学習動機づけに及ぼす影響－高校から大学への移行過程に着目した検討－. アサーティブ学習高大接続研究（追手門学院大学アサーティブ研究センター紀要）, 1, 27-38.

施 桂栄・浦 光博 (2016). 部下の暗黙のリーダー像がリーダーの誠実性の効果に及ぼす影響：日中両国の企業組織を調査対象とした研究. 産業・組織心理学研究, 30, 3-11.

玉水克明・浦 光博 (2016). 追手門学院大学のピア・サポーターが提供するサポートの分析. アサーティブ学習高大接続研究（追手門学院大学アサーティブ研究センター紀要）, 1, 39-49.

寺田未来・浦 光博 (2016). 高校生の動機づけ状態と学力がSRLの行動傾向に及ぼす影響－期待価値モデルをもとにした検討－ 認知心理学研究

所属学会

日本社会心理学会, 日本グループ・ダイナミックス学会, 日本心理学会, 日本教育心理学会, 産業・組織心理学会,

学会活動

日本社会心理学会理事、産業・組織心理学会理事
 その他（受賞）
 日本グループ・ダイナミックス学会2016年度優秀
 学会発表賞（ロング・スピーチ部門）
 心身の冷たさを評価・制御・対処から考える一社
 会心理学・心理生理学アプローチ（川本大史・
 浦 光博・開 一夫）

金政祐司教授

1) 研究活動

青年期の愛着不安と自己愛傾向が不適応な状態や
 行動を生起させるプロセスに関する研究
 ストーカーの実態調査とその規定因について

2) 研究助成

学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）
 課題番号26380859（研究代表者）

2014年4月～2018年3月

3) 社会活動

講演会等

1月4日～8日 読売テレビ「す・またん&ZIP!」
 「ヒガンバナ×ZIP」のショートドラマを監修

1月25日/27日/2月1日 Eテレ・NHK総合「趣
 味どきっ！恋する百人一首」第8回 恋の終わりの
 処方箋

4月22日 毎日新聞（夕刊）映画「さざなみ」へ
 のコメント

4月22日 読売新聞（夕刊）映画「さざなみ」へ
 のコメント

6月2日 NHK総合テレビ「あさイチ」に電話出演

7月4日 毎日新聞「はなれていても 遠距離家
 族のいま 子育て編 単身の父、家族と心つなぐ
 には」

9月10日 朝日新聞（夕刊）「SMAP 25周年
 KANSHAして いつも隣にいた」

10月5日 読売新聞（全国）「論点スペシャル 恋
 をしない若者たち」

10月22日 The Japan News（読売新聞英語版）
 「Risk aversion behind unwillingness to be open to
 relationships」

12月16日 NHK あさイチ 暮らしのスゴ技大百
 科「NHK あさイチ 暮らしのスゴ技大百科（夫
 の無駄うそを見破って上手にコントロールする）」

P91~93.

4) 著書論文

著書

金政祐司（2016）. 対人関係の研究&親密な対人
 関係の測定 大坊郁夫（監修）谷口淳一・金政
 祐司・木村昌紀・石盛真徳（編）対人社会心理学
 の研究レシピ：実験実習の基礎から研究作法まで
 北大路書房版 pp.64-67 & pp.68-83.

金政祐司（2016）. 9 人間関係. 北村英哉・内田
 由紀子（編）社会心理学概論 ナカニシヤ出版
 pp.147-169.

5) 学会発表

ポスター発表

金政祐司・荒井崇史・石田 仁・島田貴仁・山本
 功（2016）. ストーカーについての実態調査（1）
 ーストーカー的行為の被経験率ならびにパーソナ
 リティ特性と被害深刻度との関連—日本社会心理
 学会第57回大会発表論文集, P136（P1128）.

金政祐司・石田 仁・島田貴仁・山本 功・荒井
 崇史（2016）. ストーカーについての実態調査（2）
 ーストーカー行為に影響を及ぼす要因についての
 回顧的研究—日本グループ・ダイナミックス学会
 第63回大会発表論文集, P71-72（S4-4）.

荒井崇史・金政祐司・浦 光博（2016）. 愛着スタ
 イルがストーカー行為に及ぼす影響—離別に関す
 る場面想定法を用いた検討—日本社会心理学会
 第57回大会発表論文集, P138（P1130）.

ワークショップ・シンポジウム等

自主企画ワークショップ：親密な関係の闇を捉
 える～DV、DaV、そしてストーキング～（2016）.

社会心理学会第57回大会（企画・司会・指定討論
 者として）, (26). 【企画者】荒井崇史・金政祐司

【司会】荒井崇史・金政祐司【話題提供者】相馬
 敏彦・荒井崇史・島田貴仁【指定討論者】山本
 功・金政祐司

6) 所属学会

日本社会心理学会・日本グループ・ダイナミック
 ス学会・Asian Association of Social Psychology・日
 本心理学会・日本感情心理学会・日本パーソナリ
 ティ心理学会・日本教育心理学会・日本発達心理
 学会

7) 学会役員

日本社会心理学会編集員

日本パーソナリティ心理学会編集員

中鹿 彰教授

最近の研究活動

- ・LD・ADHD・アスペルガー症候群等発達障害児者への心理臨床的側面からのアプローチ
- ・保育所・幼稚園における就学前の発達障害児への支援システムの構築
- ・自閉症スペクトラム障害の認知特徴についての研究
- 社会活動・学会活動等
- ・大阪府立春日丘高校学校協議会委員 2016年4月～
- ・大阪府立北摂つばさ高等学校共生推進教室 ボランティア派遣 2016年4月～
- ・高槻市適応指導教室エスペランサ ボランティア派遣 2016年4月～
- ・茨木市立北幼稚園研修会講師「幼児期における発達障害への支援」

論文

- ・中鹿 彰 思春期・青年期の発達障害—発達障害を伴う大学生への支援— 追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要 第12号 2016年3月

所属学会

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本人間性心理学会、日本児童青年精神医学会、日本ユング心理学会

資格

臨床心理士、臨床発達心理士

中村このゆ教授

最近の研究活動

- ・ユング心理学の観点からの人間性と社会およびフェミニズムとの関わりをめぐる研究
- ・摂食障害の治療における自助グループ活動支援の実践的研究および男性摂食障害者の心理的解明
- ・子育て支援における実践的研究
- ・心理療法、教育場面におけるジェンダーコンシャスなアプローチ

研究助成

- ・2016年度特色ある研究奨励費制度採択 ジェンダーコンシャスな心理療法のための基礎的研究 (2016年度～2017年度)

社会活動

- ・NPO法人 広場型子育て支援きらりっこ顧問
- ・NPO法人 あかりプロジェクト (摂食障害者自助グループ) 顧問
- ・NPO法人 犯罪加害者家族支援スキマサポートセンター 顧問

講演等

- ・中村このゆ「我が子への声かけ、上手なほめ方・叱り方」NPO法人きらりっこ，於若江岩田みんなの広場 きらりっこ、講師 2016. 3. 21
- ・中村このゆ「摂食障害箱庭療法」「摂食障害夢分析」「摂食障害家族療法」「摂食障害事例検討①②」蘇州精神衛生協会主催摂食障害ワークショップ，招へい講師，於蘇州第一中学校，2016. 8. 9～10.
- ・中村このゆ「摂食障害の統合的治療」第8回アジアトラウマ研究会ワークショップ，学術委員，招へい講師，於中国，重慶西南大学，2016. 11. 5-6

著書・論文

- ・Nakamura, K. (2016). Archetypal Images in Japanese Anime: Space Battleship *Yamato* (Star Blazers) in Bordersen, L. & Glock, M. (eds) *Jungian Perspective on Rebirth and Renewal Phoenix Rising*. New York: Routledge, pp. 207-218.

翻訳

- ・中村このゆ (2016). スーザン・ローランド著 ユング：フェミニスト改訂版 (2). 追手門学院大学心理学部紀要, 10, 83-105.

評論

- ・中村このゆ (2016). 「こだわりの病理」への理解 体重・体型へのこだわり—摂食障害の心. 児童心理, 7 (14), 65-69. 依頼原稿

学会発表

- ・Konoyu Nakamura (2016). 'Sailor Moon'; The Moon as Healing Power for the Earth. Presentation, Discussion for the 2016 JSSS (Jungian Society for Scholarly Studies) Conference, Earth/Psyche: Foregrounding the Earth's Relation to Psyche, La Fonda Hotel, Fanta Fe, New Mexico, 2016. 6. 27.
- ・中村このゆ, 山蔦圭輔 (2016). 男性摂食障害患者における性役割と自尊感情の関連について (2) 第20回日本摂食障害学会学術集会, 於伊藤国際学術センター山上会館, 2016年9月4日
- ・山蔦圭輔, 佐藤 寛, 山本隆一郎, 中村このゆ, 野村 忍 (2016). 身体部位の主観的満足感と食行動異常との関連性. 第20回日本摂食障害学会学術集会, 於伊藤国際学術センター山上会館 2016年9月4日
- ・村田いづ実, 中村このゆ (2016). 経験者・当事者・関係者による摂食障害回復支援のためのNPO活動—自助グループへの継続的参加を阻む要因. 第20回日本摂食障害学会学術集会, 於伊藤国際学術センター山上会館, 2016年9月5日

シンポジウム等

- ・自主シンポジウム：ジェンダーコンシャスなアプローチ (11) –総合病院におけるジェンダーへの気づき– (2016). 日本心理臨床学会第35回秋季大会 (企画者・司会者として) 話題提供者, 中川佳人苗, 宮本哲雄, 今村隆, 指定討論者 仲倉高広, 於パシフィコ横浜, 2016年9月7日
- ・第20回日本摂食障害学会・学術集会, 一般演題調査研究座長, 於伊藤国際学術センター山上会館, 2016年9月4日

所属学会

日本心理臨床学会, 日本心身医学会, 日本摂食障害学会, The International Association for Jungian Studies (IAJS), 包括システムによる日本ロールシャッハ学会

学会活動

日本摂食障害学会評議員, 日本摂食障害学会組織強化委員, Member of Executive Committee of The International Association for Jungian Studies (IAJS), Program Committee for the 2017 Conference of IAJS in South Africa.

資格

臨床心理士

東 正訓教授

2016年度の前半は、奈良県および奈良県警本部がおこなう交通安全対策に寄与するために社団法人交通科学研究会が受けた委託研究「奈良県における高齢者事故に関する調査研究」成果の論文化と、当該テーマに関係した学会発表、討論会等の企画と実施、第24回参議院議員通常選挙（7月10日）後の労働組合員対象の調査企画と実施が主な活動であった。後半は、東京都、愛知県、大阪府、福岡県在住のドライバー対象の速度超過運転行動意図と速度超過習慣に関する調査の実施と基礎分析をおこない、調査の背景理論である2過程モデルと習慣理論およびIntegrative Model of Behavioral Predictionに関する理論的、応用的文献を収集し検討した。

<審査論文>

- ・東 正訓・治部哲也・山口直範 (2016) 高齢歩行者の乱横断に関連する諸要因の分析：質問紙調査による検討, 交通科学, Vol.47, No. 1, 10-17. (2016年7月28日受付, 2016年10月18日受理)

<学会発表>

- ・東 正訓・治部哲也・山口直範 (2016) 高齢者の

乱横断習慣に関する研究—アンケートデータの分析—, 日本交通心理学会2016年度 (第81回) 鳥取大会発表論文集, 11-14.

<学会役員>

「交通科学」編集委員、社団法人交通科学研究会理事

<所属学会>

日本心理学会、日本社会心理学会、日本交通心理学会、日本応用心理学会、交通科学研究会

<社会活動>

公益財団法人高速道路研究会フェロー会員、「高速道路における適正な車両間隔に関する調査研究委員会」委員 (委員長：首都大学名誉教授片倉雅彦, 2015年4月から)

<講演>

- ・「高速道路の交通安全キャンペーンに関する心理学的原理と応用」

日時：2016年12月2日 (金)

場所：グランフロント大阪 北館 カンファレンスルームタワーC 8階

- ・「高速道路の広報キャンペーンに関わる心理学的メカニズム」

日時：2016年12月15日 (木)

場所：東京都港区南麻布二丁目11番10号 OJビル 2階 公益財団法人高速道路調査会

<研究会企画運営など>

- ・平成28年度 交通科学研究会・地域交流会 (三重県・津市) 『三重県の交通安全対策について』の企画運営・コメンテーター担当

日時：2016年8月29日 (月) 13時30分受付 14時

～16時55分, 場所：みえ県民交流センター

ミーティングルームA・B (定員42名)

三重県津市羽所町700番地アスト津3階

司会進行：山口直範氏 (大阪国際大学人間科学部)

話題提供1 『三重県の交通事故抑止対策について』三重県警察本部交通部企画課企画調査官 森阪剛士氏

話題提供2 『参加・体験・実践型の団体研修について』三重県交通安全研修センター所長 村上信夫氏, 三重県環境生活部くらし・交通安全課 山口春年氏

話題提供3 『すべての人の交通安全を目指して』株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット交通教育センター所長 平井真氏

話題提供4 『子どもの通学路の安全対策について』大阪国際大学人間科学部准教授 山口直範氏

全体討論コメンテーター 東 正訓 (追手門学院
大学心理学部)

- ・平成28年度第2回研究討論会「奈良県の高齢者の交通安全について(土木学会CPDプログラムJSCE16-1027)」の企画運営及び話題提供担当

日時:2016年11月11日(金)14時30分~17時00分
(受付:14:00~)

場所:大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル
6階大阪市立大学梅田サテライト101番教室
司会進行:東正訓(追手門学院大学)・山口直範氏
(大阪国際大学)

- (1) 奈良県交通事故多発地点における対策(修成建設コンサルタント 森畑正人氏)
- (2) 高齢者の乱横断の実態、原因、対策-奈良県高齢者アンケートの結果から-(追手門学院大学 東正訓)
- (3) 奈良県横断事故多発地点の行動観察(大阪国際大学 山口直範氏)

三川俊樹教授

<最近の研究課題>

- ・キャリア教育とキャリア形成支援の推進
- ・産業カウンセリングにおけるスーパービジョンおよびスーパーバイザーの養成訓練
- ・保育所の養育機能および学校の教育機能を活用した家庭教育支援

<論文・著書等>

- ・寿山泰二・宮城まり子・三川 俊樹・宇佐見義尚・長尾 博暢(共著)大学生のためのキャリアガイドブックVer.2 北大路書房 2016年2月
- ・三川俊樹 スーパービジョンに関する一考察(2)-スーパービジョンの課題とスーパーバイザーの機能 追手門学院大学地域支援心理研究センター紀要,第12号,64-73. 2016年3月

<学会等研修>

キャリア教育と学校教育相談 日本学校心理士会
2016年度大会研修会 2016年12月4日

<講演・研修等>

- ・内閣官房内閣人事局 平成27年度「管理監督者のためのメンタルヘルスセミナー」2016年2月19日
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 平成28年度全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会「子供たち一人一人のキャリア発達を踏まえて行うキャリア教育について」(基調講演)「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査パンフレットから」(指定討論会) 2016

年5月23日

- ・独立行政法人教員研修センター 平成28年度キャリア教育指導者養成研修「キャリアカウンセリングの基盤としてのコミュニケーションスキルの向上」(研究協議) 2016年8月31日
- ・岡山県教育センター キャリア教育研修講座 2016年8月24日
- ・福岡県教育センター「今、求められるキャリア教育のすすめ方」 2016年10月21日
- ・石川県教育委員会 子供たち一人一人のキャリア発達を踏まえて行うキャリア教育「語る・語らせる・語り合わせる」-キャリアカウンセリングのすすめ(講演)平成28年度中学校キャリア教育・進路指導推進会議 2016年11月10日

<社会的活動>

- ・茨木市社会教育委員 2010年7月1日~
- ・茨木市青少年問題協議会委員・専門部会委員 2012年7月11日~
- ・茨木市中央公民館運営審議会委員 2014年5月1日~
- ・大阪府アウトリーチ型家庭教育支援推進協議会委員 2016年6月1日~
- ・高石市いじめ防止対策推進委員会委員 2016年7月1日~
- ・社会福祉法人なみはや福祉会評議員 2013年6月1日~
- ・公益財団法人関西カウンセリングセンター理事 2016年4月1日~

<所属学会>

日本カウンセリング学会、日本産業カウンセリング学会、日本教育心理学会、日本学生相談学会、日本キャリア教育学会、日本キャリアデザイン学会、日本教育カウンセリング学会、日本青年心理学会

<学会活動>

学会連合資格「学校心理士」資格認定運営機構「学校心理士」認定委員会委員、日本カウンセリング学会常任編集委員、日本教育カウンセリング学会編集査読協力委員、日本産業カウンセリング学会SV資格認定委員会委員、日本教育カウンセラー協会評議員、日本キャリアデザイン学会関西支部運営委員、日本学校心理士会大阪支部副支部長、大阪教育カウンセラー協会副会長

<資格>

認定スーパーバイザー・スーパービジョンメンター(日本産業カウンセリング学会)、学校心理士

スーパーバイザー（学会連合資格「学校心理士」認定運営機構）、大学カウンセラー（日本学生相談学会）、上級教育カウンセラー（日本教育カウンセラー協会）

溝部宏二教授

1) 研究活動：

2016年1月から12月の活動について述べる。2010年度に開始したメインの研究テーマの一つでもある「精神療法を日本独自の視点から考える（日本語臨床）」と言う主旨で「精神の弁証法としての内観療法、その可能性と限界 - 奥村二吉に学ぶ-」を内観医学に執筆して、先鞭を付けたので、「日本独自の論理である西田哲学を通して日本独自の精神療法である内観を検討する」を大テーマに2016年も継続して研究を行った。2015年に大阪城スクエアにて「第38回日本内観学会大阪大会：内観SAIKOU：サイコセラピーとして修行としての内観を考える」を開催したが、実施内容をまとめ内観研究に報告した。今回は内観の治療機序を、宗教学的見地から問うてみた。

2) 研究助成：

2016年度：無し。

3) 社会活動：

- ・ スクールカウンセラー事例研究会開催 1回/月（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）
- ・ 無料発達相談会開催 2016年2月15日～2月26日（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）
- ・ 高槻市自殺未遂者支援事業事例検討会スーパーヴァイザー 年4回：3月25日、6月1日、9月2日、12月7日（於：高槻保健所）
- ・ 第2回高槻市自殺対策庁内連絡会及び研修会講演タイトル「精神科医からみる自殺者の心理と対策（うつ病を中心として）」2016年1月28日（於：高槻市役所）
- ・ 平成27年度 大阪市子ども青年局家庭児童談員月例研修会講演 タイトル「『子育て支援にいかす精神医学』～保護者の精神疾患に対する知識と対応～」2016年2月19日（於：大阪市役所本庁）
- ・ 追手門学院大学創立50周年記念事業地域支援心理研究センター分室附属心の相談室分室開設記念シンポジウム「孤立・無縁社会を生き抜く」企画・シンポジスト タイトル「アナタの知らないうら（こころ）の世界 -なぜ人は『絆』を求めるとか-」2016年3月2日（於：茨木市立男女共生センター ローズWAM）

- ・ 無料発達相談会開催 2016年7月18日～8月5日（於：追手門学院大学地域支援心理研究センター）
- ・ 大阪市子ども青少年局子育て支援部管理課（子育て支援グループ）主催の大阪市子ども相談係長研修会開催 タイトル「『精神疾患を持つ保護者への対応について』～保護者の精神疾患に対する知識と対応～『わが家の母はビョーキです』の意味すること」2016年9月9日（於：大阪役所本庁）
- ・ 第12回追手門学院大学地域支援心理研究センター講演会「うつ病の理解と援助のための心理学～認知行動療法の考え方と方法のエッセンスから～」企画運営・司会 2016年11月19日（於：追手門学院大学5301教室）
- ・ 第4回子ども・若者支援講座講演・相談業務 タイトル「ニート・ひきこもり・不登校に対して家族ができること～『子どものミカタ』になるコツ～」2016年11月26日（於：吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館）

4) 著書・論文

- ・ 溝部宏二（2016）. 「内観」に想う～半分部外者として感じたこと～ 内観研究, 22, 1
- ・ 溝部宏二（2016）. 現代社会の必然としての自我肥大者（自己愛者）と内観～宗教性に続く精神の弁証法的発展 内観研究, 22, 3-12
- ・ 溝部宏二、中川彩華、南浦由佳、清澤亜希子、赤根美結、藤井崇央、大川恵莉子、松原彩乃、末代咲恵、加藤宏明（2016）. にこにこ教室最終講義～心理臨床における主体性を育む療育プログラム実施の意義：「積極の見守り」姿勢の獲得～追手門学院大学心の相談室紀要, 13, 35-70

5) 学会発表：

- ・ 第39回 日本内観学会 第19回 日本内観医学会併催東京大会 一般演題 座長 2016年10月2日（於：法政大学多摩キャンパス）

6) 所属学会：

日本精神神経学会、日本心身医学会、日本精神分析学会、日本内観医学会、日本内観学会、日本心理臨床学会

7) 学会活動：

日本内観医学会評議員、日本内観学会評議員

8) 資格取得：

医師免許、精神保健指定医、精神科専門医、心身医療「精神科」専門医、臨床心理士

大神田麻子准教授

研究活動

- ・就学前児のYes-No質問に対する反応バイアスの検討
- ・「わからない」反応に対する日本・ハンガリーの子どもと大人の評価
- ・就学前児の語用論理解の発達に関する検討

海外出張

- ・反応バイアス研究に関する研究成果について、フランス (International Interdisciplinary Workshop "Moral Machines: Developments and Relations Nanotechnologies and Hybridity) およびHAI2016 (シンガポール) の学会に参加して発表した。
- ・ハンガリーと日本の子どもの文化比較研究について、今後の研究計画および執筆中の論文についての議論を行った。

研究助成

科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金)
若手研究 (B) 2014年4月～2018年3月「就学前児における言語質問を介したコミュニケーション能力の発達とそのプロセス (研究課題番号: 26780417)」

著書・論文

◀プロシーディング>

Okanda, M., Zhou, Y., Kanda, T., Ishiguro, H., & Itakura, S. Response Tendencies of Four-Year-Old Children to Communicative and Non-Communicative Robots. Paper presented at the Proceedings of the Fourth International Conference on Human Agent Interaction, Biopolis, Singapore. (査読付)

学会発表

◀口頭発表>

Okanda, M. & Itakura, S. (2015). Understanding violations of Gricean maxims in typically developing preschoolers and adults. The 31st International Congress of Psychology, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, 2016.7.24-29. (シンポジウム・口頭発表)

Okanda, M. (2016). Preschoolers' responses to yes-no questions. International Interdisciplinary Workshop "Moral Machines: Developments and Relations Nanotechnologies and Hybridity," UNESCO, Paris, France, 2016. 5. 18-19. (招待講演)

大神田麻子 (2016). 就学前児の反応バイアス日本発達心理学会第27回大会 北海道大学 (札幌) 2016. 4. 29-5. 1. (シンポジウム・口頭発表)

所属学会

日本発達心理学会 日本心理学会 日本赤ちゃん

学会

河崎美保准教授

1) 研究活動

- ・教師が協調的な学びを取り入れた授業を行おうとする際に経験する信念のコンフリクトや再構成の抑制・促進要因の検討
- ・知識構成型ジグソー法を用いた算数の授業実践においてジグソー課題をどのような要素に分割することが有効であるかを検討

2) 研究助成

平成27 - 29年度「科研費若手研究 (B) 協調的学びを引き起こす授業デザインを支える教師の信念に関する研究」研究代表者

平成26 - 28年度「科研費基盤研究 (A) 持続的な学びを支える学習科学ポータルサイトの開発と評価」研究分担者

平成28 - 30年度「科研費基盤研究 (B) (海外学術調査) 学習科学を応用したイノベーティブな教育の理論と方法に関する国際調査研究」研究分担者

3) 社会活動

国立教育政策研究所 プロジェクト研究「児童生徒の資質・能力を育成する教員等の養成、配置、研修に関する総合的研究」に係る委員

4) 著書・論文

益川弘如・河崎美保・白水 始 (2016) 建設的相互作用経験の蓄積が協調的問題解決能力の育成につながるか—縦断的な発話データを用いた能力発揮場面の分析— 認知科学, 23, 237-254.

大浦弘樹・河崎美保 (2016) 海外における取り組み～実践的な開発研究と理論構築への挑戦 大島純・益川弘如 (編著) 教育工学選書 学びのデザイン: 学習科学 (pp. 112-137) ミネルヴァ書房

河崎美保 (訳) (2016) 第14章 課題解決型学習 R. K. ソーヤー (編)・大島 純・森 敏昭・秋田喜代美・白水 始 (監訳)・望月俊男・益川弘如 (編訳). 学習科学ハンドブック 第二版 第2巻: 効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ (pp. 17-35) 北大路書房

5) 学会発表

河崎美保・遠藤育男・益川弘如 (2016). 協調的な学びに関する教師の信念の変容プロセス. 日本認知科学会第33回大会 (2016年9月18日)

河崎美保・益川弘如・丸井純・堀野良介・遠藤育男 (2016). 協調問題解決授業において比較に値する多様な考えを引き出す課題のデザイン. 日本教

育心理学会第58回総会（2016年10月8日）

河崎美保（2016）。「アクティブ・ラーニング」の視点に基づく授業づくりへの示唆。自主シンポジウムJG02「初等中等教育段階の『アクティブ・ラーニング』への教育心理学的アプローチ」における話題提供。日本教育心理学会第58回総会（2016年10月10日）

6) 所属学会

日本教育心理学会，日本心理学会，日本認知科学会，日本発達心理学会，日本数学教育学会，International Society of the Learning Sciences

7) 学会活動・資格取得等 なし

駿地眞由美准教授

研究活動

医療における心理臨床をテーマに、実践研究を行った。

（2015年4月～2017年3月 産・育休中）

社会活動

神戸市立中央市民病院倫理委員会委員
京都府AIDS/HIV派遣カウンセラー 他

講演

2016年1月21日 茨木市立福井幼稚園研修会講師
「仲間関係の発達と「遊び」の力」

所属学会

日本心理臨床学会
日本ユング心理学会
日本箱庭療法学会

資格

臨床心理士

田中秀明准教授

研究活動

研究課題：事象関連脳電位による社会神経科学的
研究

著書・論文

Tanaka, H. (2016). Facial Cosmetics Exert a Greater Influence on Processing of the Mouth Relative to the Eyes: Evidence from the N170 Event-Related Potential Component. *Frontiers in Psychology*, 7:1359. doi: 10.3389/fpsyg.2016.01359

学会発表

Tanaka, H. N170 component reflects change of hairstyle for face perception. 2016年. (The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan)

所属学会

日本生理心理学会、日本心理学会、日本臨床神経生理学会、日本認知心理学会、関西心理学会

辻 潔准教授

その他

- ・辻潔2016 学生対応上の連携と学生相談室に求められること 学生相談室年報 第26号 巻頭言
- ・辻潔2016 いきいきと息していますか？ 追手門学院大学学生相談室だより79号

所属学会

日本心理学会，日本心理臨床学会，日本人間性心理学会

資格

臨床心理士

永野浩二准教授

研究活動

- ・2016年3月まで国内研修として、パーソンセンタード・アプローチの諸活動が盛んな村山正治先生（東亜大学研究科）のもとでパーソンセンタード・カウンセリングと体験過程尊重尺度を用いた研究を行った。2016年は、その成果の一部を、国際学会および国内学会にて発表した。
- ・実践活動として、パーソンセンタード・アプローチを応用したカウンセリングやエンカウンター・グループを継続して行っている。更に、パーソンセンタード・アプローチを応用したメンタルヘルス領域における「幸せな働き方・生き方」に関する実践・研究を継続して行っており、今年は企業や産業カウンセリング協会から研修の依頼を受けて、「幸せな働き方」に関する体験学習を交えた研修会を行った。

研究助成

学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）課題番号26380967（研究代表者）2014年4月～2017年3月
論文

- ・永野浩二（2016）21世紀知のフロンティア・最前線の探求 平成27年度第1回講演「日常におけるフォーカシング的態度：その意義と展望」東亜臨床心理学研究, 15, 3-27. 東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻紀要
- ・永野浩二（2016）人間性心理学の立場からうつ状態を考える～日常生活におけるフォーカシング的態度を中心に～ 産業ストレス研究23（4）289-296

学会発表

- ・ Morikawa, Y., Nagano, K., Fukumori, H. & Hirai, T. (2016) Development of revised versions of the focusing manner scales : FMS-18 and FMS-12 July 22th, 2016 WAPCEPC at City University of NY Graduate Center
- ・ Nagano, K., Hirai, T., Fukumori, H. & Morikawa, Y. (2016) Relationships between focusing attitudes in daily lives and psychological stress responses, stress coping behaviors, and work motivation July 23th, 2016 WAPCEPC at City University of NY Graduate Center
- ・ 永野浩二 (2016) パーソンセンタード・カウンセリングに関する一考察：よくわからないケースと「共にいること」日本人間性心理学会第35回大会 於：九州産業大学（8月29日）日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集. 50-51.
- ・ 内田陽之・永野浩二・森川友子・福盛英明・平井達也・山根英之・水本正志・岩佐 浩・吉岡千晶・黒木仁美・森口次郎 (2016) フォーカシング的態度が心理的ストレス反応や仕事のモチベーションに及ぼす影響についての一考察（2）第56回近畿産業衛生学会 於：ピアザ淡海（11月13日）

社会活動

- ・ 研修会講師 第3回「幸せな働き方・生き方の創造」 2016年4月23日～4月24日 於：創元社セミナーハウス
- ・ 研修会講師 GSユアサメンタルヘルス研修「幸せな働き方・生き方の創造」2016年11月18日 於：GSユアサ大阪研修ルーム
- ・ 心の教育研究所セミナー「大学生のメンタルヘルス～自分と仲間をサポートするためのヒント～」 2016年11月28日 於：追手門学院大学2309教室
- ・ 研修講師 産業カウンセラー協会関西支部研修会「幸せな働き方・生き方の創造について」2016年12月17日 於：大阪産業創造館
- ・ 茨木市立男女共生センター ローズWAM スーパーバイザー

所属学会

日本人間性心理学会、日本心理臨床学会、日本学生相談学会、日本産業ストレス学会、WAPCEPC（パーソンセンタード&体験過程療法／カウンセリング国際学会）

資格

- ・ 臨床心理士
- ・ Focusing Institute認定トレーナー

馬場天信教授

1) 最近の研究活動

- ・ 対人関係論・関係論学派による精神分析的心理学療法による事例研究
- ・ アレキシサイミアに関する基礎的研究

2) 研究助成

- ・ 科研（挑戦的萌芽）慢性痛の脳画像によるクラスタリングの開発：Alexithymia vs 神経症 挑戦的萌芽（2016年4月～2017年2月）
- ・ 科研（基盤C）アレキシサイミアに対する対人関係療法導入のためのアセスメントツール開発（基盤C）基盤研究（C）（2015年4月～2018年3月）
- ・ 2016年度特色ある研究奨励費制度採択 両親の原家族機能が子どものアレキシサイミア形成に及ぼす影響（2016年4月～2018年3月）

3) 社会活動

- ・ KIPP対人関係精神分析セミナー 精神分析的心理学療法の基礎セミナー講師「導入期における関係性のアセスメント」2016年5月15日（於：京都キャンパスプラザ）
- ・ 日本精神分析的自己心理学協会（JFPSP）2016年度第2回公開セミナー グループスーパーヴィジョン事例発表（於：兵庫県民会館 8月21日）
- ・ 精神分析研究会・神戸 事例発表（講師 妙木浩之）2016年5月8日（於：兵庫県学校厚生会館）
- ・ 大阪精神分析セミナー 事例発表（講師 館 直彦）2015年3月27日（於：大阪国際会議場）

4) 著書・論文

- ・ 馬場天信・南浦由佳 (2015). 頭痛に対する破局的思考と症状受容が症状重篤度に及ぼす影響 —アレキシサイミアの観点から— 追手門学院大学心理学部紀要, 10, 29-50.

5) 学会発表

- ・ 馬場天信 (2016). 小学校時代の食卓経験とアレキシサイミアとの関連性, 第57回日本心身医学総会ならびに学術講演会抄録集, 672. (於：仙台)
- ・ 馬場天信 (2016). 心の色彩を失った女性色彩を取り戻すまでの心理療法過程, 日本精神分析学会第62回大会抄録集, 69-71. (於：広島)

6) 所属学会

日本心理臨床学会、日本心理学会、日本心身医学会、日本精神分析学会、日本ロールシャッハ学会、日本心療内科学会、日本健康心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本感情心理学会、精神分析的心理学療法学会、等

7) 学会活動

日本心理学会専門別代議員第Ⅲ部門 (2014年～現在)

8) 資格

臨床心理士、KIPP認定精神分析的心理療法家

荒井崇史講師

1) 研究活動

- ・防犯対策を促進するための効果的な情報発信に関する研究：計画行動理論をベースとした検討
- ・暴力に対する潜在的態度に関する研究
- ・交際相手間における暴力に関する研究：暴力許容の観点からの検討
- ・ストーカー行為を規定する要因の検討

2) 研究助成

- ・荒井崇史 科学研究費助成事業 若手研究B「暴力発生メカニズムの実証的検討—暴力への潜在的態度の影響力—」研究代表者 (文部科学省, 2016年4月1日～2019年3月31日)

3) 社会活動

- ・公益財団法人 日工組社会安全財団「ストーカー事案の被害実態等に関する調査研究」研究会 研究会員
- ・関東管区警察学校 防犯実務の専科教養における講師 (犯罪情勢分析サブコース「心理学から見た効果的な情報発信」) 2016年6月2日 (於 関東管区警察学校)
- ・近畿ブロック防犯ボランティアフォーラム 講評・講演 (防犯ボランティアのポイント) 2016年7月2日 (於：ナレッジキャピタル コングレコベンションセンター)
- ・追手門学院大学成熟社会研究所 シェアラボ ゲストスピーカー 2016年12月8日 (於：追手門学院大学)

4) 著書・論文

- ・荒井崇史 (2016). 犯罪・非行 日本心理学諸学会連合心理学検定局 (編) 心理学検定 一問一答問題集 [B領域編], 実務教育出版, 194-237.
- ・荒井崇史 (2016). [B領域：犯罪・非行] 解説 日本心理学諸学会連合心理学検定局 (編) 2016年度版 心理学検定 公式問題集, 実務教育出版, 61-64.
- ・荒井崇史 (2016). デート暴力, 犯罪情報の発信, 防犯ボランティア 日本犯罪心理学会 (編) 犯罪心理学事典, 丸善出版.

5) 学会発表

- ・日本感情心理学会第24回大会 若手企画2 日本

人研究者による英語口頭発表—ICP2016を前に—企画・司会：高田琢弘 話題提供：荒井崇史・武藤世良・千島雄太・山岡明奈・石井 悠 2016年7月18-19日 (於：筑波大学)

- ・日本社会心理学会第57回大会 自主企画ワークショップ 親密な関係の闇を捉える—DV, DaV, そしてストーキング— 企画・司会：荒井崇史・金政祐司 話題提供：相馬敏彦・荒井崇史・島田貴仁 指定討論：山本功・金政祐司 2016年9月17日-18日 (於：関西学院大学), p. (26).
- ・荒井崇史 (2016). 地域防犯活動への参加意図を規定する要因の検討 犯罪心理学研究第54巻特別号 (東洋大学; 2016年9月3日-4日).
- ・荒井崇史・金政祐司・浦光博 (2016). 愛着スタイルがストーカー行為に及ぼす影響—離別に関する場面想定法を用いた検討— 日本社会心理学会第57回大会発表論文集, p.138. (於：関西学院大学; 2016年9月17日-18日)

6) 所属学会

日本心理学会, 日本社会心理学会, 日本犯罪心理学会, 日本感情心理学会, 日本カウンセリング学会, 日本心理臨床学会, 日本環境心理学会, Society for Personality and Social Psychology, Association for Psychological Science

7) 学会活動

- ・2015年1月15日～現在 日本心理学諸学会連合心理学検定局員
- ・2015年6月15日～2016年6月19日 日本感情心理学会第24回大会準備委員会 委員
- ・2015年12月8日～現在 日本犯罪心理学会 研究委員
- ・2016年6月19日～現在 日本感情心理学会 編集委員

8) 資格取得・その他

社会福祉士, 専門社会調査士

荒木浩子講師

1) 研究活動 (海外出張などを含む)

テーマ：「こころのおさめ方」について
平成27年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV陽性者の心理的支援の重要性に関する検討」(2年目) (研究協力者)

2) 論文、その他の著作

「2015年度学生相談室活動報告書」学生相談室年報第26号、pp.16 - 27

「2015年度学院メンタルケア活動報告と今後について」学生相談室年報第26号、p.31-32

3) 学会発表

なし

4) その他の活動

近畿学生相談研究会 第49回特別例会助言者
追手門学院大学学院メンタルケア（こども園、幼稚園、小学校、大手前中等・高等学校）心理教育相談担当

6) 所属学会

日本臨床心理学会、日本箱庭療法学会

7) 資格

臨床心理士

倉西宏講師

1) 研究活動

- ・死別や喪失への心理臨床的理解とその援助
- ・イメージを用いた心理臨床
- ・福祉型障害児入所施設における心理臨床

2) 社会活動（講演会講師などを含む）

四天王寺太子学園 臨床心理士
カウンセリングルーム*オータム 室長・カウンセラー
京都学園大学大学院 大学院生 スーパーヴァイザー
八尾市立高美中学校 教員研修会講師「Q-U活用法と生徒へのかかわりについて」2016年8月29日
於：八尾市立高美中学校
八尾市立高美中学校 Q-Uの継続分析とそのフィードバック 2016年11月24日 於：追手門学院大学

八尾市立高美中学校 年間アドバイザー
ブラジル日本交流協会 課題チューター

3) 論文

倉西 宏 (2016)：心理療法における「第三のもの」の働き—中期うつ病女性との夢とバウムを用いた面接過程から— 箱庭療法学研究 第29巻2号 55-66

倉西 宏 (2016)：心理療法における「交換」と「贈与」の原理から見た「料金」の働き 追手門学院大学地域支援心理研究センター附属心の相談室紀要 第12号 12-17

4) 所属学会

日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本集団精神療法学会、日本自殺予防学会、日本死の臨床研究会（学会）、日本ユング心理学会

5) 学会活動（役職、委員など）

箱庭療法学会 第30回大会 研究発表A-02 司会者
於：帝塚山学院大学
近畿学生相談研究会（KSCA）第49回特別例会分科会講師 Dコース「事務職員の日常業務の中での学生支援」於：京都文教大学

吉村晋平講師

1) 研究活動（海外出張などを含む）

- ・感情障害における感情調節障害の心理生理学的メカニズムの解明と機械学習によるうつ病の診断・治療反応予測方法の開発
- ・Burning mouth syndromeにおける痛みの感受性に関する神経基盤の解明
- ・社交不安の解釈バイアスの心理生理学的検討

2) 研究助成（文部科学省科研費などを含む）

- ・2013-2016年度 日本学術振興会学術研究助成基金助成金（若手研究B 課題番号25780413）「感情障害における情動制御障害の心理生理学的メカニズムの検討」研究代表者

3) 社会活動

- ・追手門学院大学 地域支援心理研究センター 講演会（第12回）講師「うつ病の理解と援助のための心理学—認知行動療法の考え方と方法のエッセンスから—」
- ・認知発達理論分科会第51回例会 話題提供者「ストレス記憶とうつ病に関する脳機能研究」

4) 著書・論文

- ・Yoshimura, S., et al. "Cognitive behavioral therapy changes functional connectivity between medial prefrontal and anterior cingulate cortices." *Journal of Affective Disorders* (2016).

5) 学会発表

- ・池田正樹 吉村晋平 社交不安と遅延価値割引との関連について 日本認知・行動療法学会第42回大会（於 アスティとくしま）
- ・橋本勇真 吉村晋平 アンヘドニア傾向・抑うつ傾向とポジティブ・イリュージョンの関係について 日本認知・行動療法学会第42回大会（於 アスティとくしま）

6) 所属学会

- ・日本うつ病学会、日本行動療法学会、日本神経科学学会、日本心理学会、日本心理臨床学会、日本生物学的精神医学会、日本認知療法学会、日本不安症学会

- 7) 学会活動
 - ・特記事項なし
- 8) 資格取得・その他
 - ・臨床心理士 (第19323号)
 - ・心理学検定 1 級

田邊亜澄特任助教

研究活動

- ・エディンバラ大学で開発された日常的場面を模した展望的記憶課題Edinburgh Virtual Errands Test (EVET) の日本語版課題の整備ならびに複数オブジェクト環境での課題目的に無関連な情報が課題遂行に及ぼす影響とその個人差の検討
- ・背景文脈を伴う人物画像の記憶課題における課題無関連な文脈情報の制御の神経基盤の考察
- ・実行機能測定課題としてのN-back課題における情報更新の心的過程の検討
- ・意味記憶表象における側頭葉前部の役割に関する研究

研究助成

日本学術振興会科学研究費補助金若手 (B) 「日常的場面での行動における無関連な情報の影響」

社会活動

該当なし

著書・論文

該当なし

学会発表

Tanabe-Ishibashi, A., Ishibashi, R. & Saito, S. (2016). 「How does updating work in the N-back task?」 6th International Conference on Memory, Budapest, Hungary

所属学会

日本ワーキングメモリ学会、日本心理学会、Association for Psychological Science、Psychonomic Society

学会活動

該当なし

資格取得その他

該当なし

増井啓太特任助教

1) 研究活動

共感性や罪悪感が低い、利己的で冷淡、衝動性が高いといった特徴を持つサイコパシーと呼ばれる個人特性に着目し、高サイコパシー傾向者の対人認知、意思決定、ならびに対人行動の特徴について

検討した。さらに、サイコパシーと、それに類似した特徴を持つマキャベリアニズム、自己愛性傾向をまとめた Dark Triad (闇の三項) と呼ばれる個人特性にも着目し、Dark Triad 傾向の高い人たちの認知的、行動的特徴について研究を実施している。研究成果の一部は国際誌や国内外の学会にて発表している。

また、高 Dark Triad 傾向者の非互惠的で、攻撃的な対人方略を抑制するための要因 (社会環境要因、身体内部への感受性の高さなど) の影響について検討し、彼ら・彼女らが社会の中で適応的な生活を送るための方略を明らかにしたいと考えている。

2) 研究助成

・研究代表者

平成28年度～平成31年度 科学研究費補助金 (若手研究 (B)) 「身体への気づきが対人場面での行動ならびに意思決定に及ぼす影響」

・研究分担者

平成27年度～平成30年度 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 「関係への所属はわれわれに何をもたらすかー他者との関係の行動科学的検討」

3) 社会活動

該当なし

4) 著書・論文

Masui, K., & Ura, M. (2016). Aggressive humor style and psychopathy: Moderating effects of childhood socioeconomic status. *Translational Issues in Psychological Science*, 2, 46-53.

5) 学会発表

Masui, K., Henmi, M., Kijima, N., & Umeda, S. (2016). Relationship between the Dark Triad personality and the transition in forming interpersonal impression. *The 31st International Congress of Psychology*, Yokohama, Japan.

増井啓太 (2016). 他者への印象の推移に及ぼす Dark Triad の影響 日本パーソナリティ心理学会第25回大会発表論文集, 18-19.

増井啓太 (2016). 犯罪加害者への非難に及ぼす加害者の性質とサイコパシーの影響 日本社会心理学会第57回大会発表論文集, 112.

6) 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会、日本パーソナリティ心理学会、日本認知心理学会、Association for Psychological Science、The International Society for the Study of Individual Differences

7) 学会活動

該当なし

8) 資格取得・その他

該当なし

大学院生の研究動向

2016年(平成28年) 修士論文 題目一覧

心理学研究科心理学専攻

M2: 臨床心理学コース

齋藤 慎介

・男子大学生における男性役割とストレスに関する研究

大川恵莉子

・人間のプレゼンスを感じることの意義と影響に関する研究—プレゼンスを感じたことがある人へのインタビューを通して—

鹿釜 秀一

・死別体験後の心的外傷後成長感とあきらめの関連

島本 翔子

・アンヘドニア症状とストレスが報酬学習行動に与える影響

赤根 美結

・青年期における追い込まれ体験に関する基礎的研究—アイデンティティ確立の観点からの検討—

清澤亜希子

・ベーシック・エンカウンター・グループが対人援助の在り方に与える影響

子日 康史

・失恋体験の意味の変容における箱庭制作の効果

藤井 崇央

・感情喚起刺激への注意従事・解放におけるバイアスと絶望感との関連

木村 優花

・レジリエンスに影響を及ぼす要因の検討—LOC尺度、特性的自己効力感尺度、援助要請スタイル尺度、精神的回復力尺度の分析を通して—

中川 彩華

・幼少期の愛着関係が現在の対人関係や家族機能に及ぼす影響—両親と子どもの原家族体験、アレキシサイミアに注目しての検討—

南浦 由佳

・思春期のチャムシップ経験が自己開示傾向に及ぼす影響—自己開示抵抗感、アレキシサイミア傾向に注目しての検討—

M2: 社会・環境・犯罪心理学コース

三好 理央

・逸脱性および空間的距離の操作による無害逸脱理論の検討

M1 研究活動

岡田 貴恵

・愛着スタイルが喪失体験後に感じる孤独感に及ぼす影響

門脇加江子

・新人看護職におけるピアサポートの効果

古谷有佳理

・アサーティブな行動が日常生活の対人関係に及ぼす効果

坂元 友美

・養育体験を通じた母親のアイデンティティ獲得についての研究

中西 茂貴

・フォーカシング指向心理療法のセラピストへの援助—セラピー時におけるクライアントの「体験過程」への触れにくさについて—

橋本 彩加

・消化器系心身症患者の対人関係の在り方について

橋本 勇真

・楽観性に対する認知的操作の効果

宮崎 佑希

・集団場面への過剰適応傾向について

本橋 栄乃

・構造化された箱庭制作におけるイメージの変化について

吉田 健太

・セルフ・ハンディキャッピングに関する研究

四辻 ちなみ

・心的虚言性尺度の開発とその妥当性についての基礎的研究

M1: 生涯発達・生涯教育心理学コース

衣 雪眉子

・日本人と外国人の日本語文の意味的理解の差の研究—事象関連電位を用いて—

藤田 尚宏

・大学生の進路選択におけるキャリア・アダプタビリティについての研究—レジリエンスとの関連から—

山中理恵子

・日本語の視覚課題と言語課題に見られる理解の性差—事象関連電位の振るまいから—

M1：社会・環境・犯罪心理学コース

戸高 美佳

・暴力への潜在的態度の測定指標に関する信頼性と
妥当性の検討

心理学研究科心理学専攻